週刊アジア 新年特集号

利益追わぬ投資を

世界的な金融危機が衝撃を与えた08年、その突風はアジアにも吹き荒れました。貧困問題の解決に取り組んできたバングラデシュの経済学者ムハマド・ユヌス氏グラミン銀行総裁=写真=は危機を克服するカギとして、社会問題に取り組む新しい企業モデルを提唱しています。(タッカー=小暮哲夫)

=1面から続く

■ユヌス氏の発言骨子

①金融危機の原因は市場への過度な信頼
②金融危機の最大の被害者は30億人の貧困層
③食糧・エネルギー・環境危機も忘れるな
④誰もが分け前を取れるグローバル化を
⑤社会貢献目的の新企業モデルを市場に
⑥アジアの「無私」の伝統は危機の時代に生かせる

■金融危機に学ぶ

――08年の最大きな出来事の一つが金融危機でした。金融危機は、私たちが金融の世界を、完全に理解していなかったことを示した。市場は最高で「見えざる手」がすべて解決してくれる、と信じ込まされていた。金融市場をカジノのように使い、実体のないものを信じていた。

――1握りの金持ちが起こした危機で生活が直接打撃を受けたのは工場が閉鎖し職を失った世界に30億人いる底辺の人々だ。今、巨額の金融救済を議論しているが、職を失った貧しい人々の救済策を話し合っている場所はない。皮肉なことだ。ここに無視されていたのは、金融危機は08年の様々な危機の一つ、ということだ。食糧危機も起こった。エネルギー危機もあった。高騰した石油価格は収まった。問題は消えていない。以前から環境危機も続いている。これらの危機は関連し合う。私たちは、全体のシステムを再設計しなければならない。今やらなければいけない。

――これらの危機に関連するグローバル化や自由市場について、どう考えますか。

グローバル化は、だれかが設計したものではない。人類の登場以来、常にその移動はあった。その過程は変えられない。問われなければならないのは、正しいグローバル化かどうかだ。

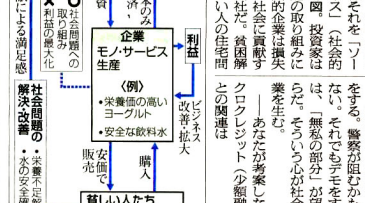
グラミン銀行 ムハマド・ユヌス総裁に聞く

Muhammad Yunus 経済学者。グラミン銀行総裁。40年、英領インド北東部のチッタゴン(現在のバングラデシュの第2の都市)生まれ。60年代に奨学金を得て米国に留学。70年に米バンダービルト大で経済学博士号を取得後に帰国し、チッタゴン大経済学部長に。76年に貧しい人々の自立を促す手法として、マイクロクレジットを考案。83年にグラミン(農村)銀行を設立して、活動を全国に広げた。06年にノーベル平和賞受賞。新著に「貧困のない世界を創る」(日本語訳、早川書房)。68歳。

週刊アジア キーワード

マイクロクレジット(少額融資) 既存の銀行が融資しない貧困層を対象に無担保で少額を貸し付ける制度。貧しい人々が、起業し、貧困から脱することを目的とする。マイクロファイナンスとも呼ばれる。ユヌス氏らが76年に始め、世界100カ国以上で実施されている。

グラミン・ダノン バングラ農村部の子供たちの栄養不足解消を目指し、グラミン銀行グループと乳製品の仏大手ダノンが共同出資して06年3月に設立。現在9万7千人を対象に栄養価の高いヨーグルトを1パック5タカ(約7円)で提供している。



本主義を誤って解釈していた。ビジネスは企業をつくりだすことで、利益の最大化がその使命と言う。この解釈は人間の本質を誤った解釈だと思う。

■満足感を求めて

すべての人間には利己的な面と、無私で献身的な面がある。私たちは利己的な部分だけに基づいて、資本主義を構築してしまった。無私の部分を市場に持ち込めば、資本主義は完成する。私はそれを「ソーシャル・ビジネス」(社会的企業)と呼ぶ。図。投資家は特定の社会問題の取り組みに投資する。私たちは、社会的企業は損失も配当もない、社会に貢献する目的を持つ会社だ。貧困解消や健康、貧しい人の住宅問題、環境問題など様々な事柄に取り組める。私たちはバングラデシュの乳製品会社ダノンと「グラミン・ダノン」という会社を設立した。栄養価の高いヨーグルトを生産し、栄養不足の子供たちに低価格で売っている。目的は金もうけだけでなく、栄養不足の問題だ。バングラデシュには栄養の問題がある。飲料水の問題に取り組む「グラミン・ベオリア」という会社も設立した。

――その仕組みは。

――投資した金は、可能な限り元本だけを返済してもらう。利益を生むかもしれない配当を受けない。金銭的利益はなくても、安全な水の提供や満足感を得られるからだ。

――会社の利益の使い道は。

利益はビジネスの改善、拡大に使う。ダノンもベオリアも自ら利益を取らない。私たちとの条件で合意した。

――配当なしで、投資家の関心が集まるでしょうか。

考え直してほしい。従来の慈善事業への寄付の代わりだ。人々は、と言っているのだ。

――新しい会社を立ち上げて、社会で通用するかどうか。

社会で通用しないことがある。警察が阻止するかもしれない。それでもデモをするのか、と。

――無私の部分が強くかつ、一般的な社会的企業を生む。

――あなたが考案したマイクロクレジット(少額融資)との関連は。

本来、人間は、自分の利益だけを追って、貧しい人々に起業を促し、収入を生むこと。路線は同じだ。

■「無私」残るアジア

――中国やインドが台頭しています。従来の路線で進んだ場合、両国の貧困は解消できますか。

両国とも劇的に貧困を減らしている。グローバル化と利益の最大化を目指す経済が、貧困問題にも効果があるということだ。しかし、世界で最も豊かな米国には貧しい人々がいて、実に4700万人が医療保険を利用できないと伝えられている。保険が民間企業によるものだからだ。民間業は、貧しい人々を放置してしまう。

中印が同じ道をたどるなら、4倍の人々が保険を使えないことになる。人間の「二つの顔」がともに機能する資本主義を完成させなくて、貧困は将来も残るだろう。

――アジアにある、自給自足とか助け合いなどの伝統をどう生かせるでしょうか。

アジアでは、老いた両親の面倒を見るなど「無私(セルフレスネス)」の伝統が欧米より残っている。家族は社会の最小の単位で、そこから地域社会への貢献を感じ、人生を過ごしている。この伝統は、経済の世界では社会的企業の創設で実現できる。

――日本への期待は。

フランスの人々が社会的企業を始めたが、日本の人々も重要な役割を果たせる。利益の最大化を夢見る眼鏡を外し、社会的企業の眼鏡をかけてみてはどうか。世界が全く違って見えるだろう。日本企業には社会貢献の基金がある。それを慈善事業の代わりに使える。

――グラミン銀行を作った意図は、自分の利益だけを追わない、貧しい人々が、収入を生むことで、路線は同じだ。

――アジアの貧困は解消できますか。

両国とも劇的に貧困を減らしている。グローバル化と利益の最大化を目指す経済が、貧困問題にも効果があるということだ。しかし、世界で最も豊かな米国には貧しい人々がいて、実に4700万人が医療保険を利用できないと伝えられている。保険が民間企業によるものだからだ。民間業は、貧しい人々を放置してしまう。

中印が同じ道をたどるなら、4倍の人々が保険を使えないことになる。人間の「二つの顔」がともに機能する資本主義を完成させなくて、貧困は将来も残るだろう。

――アジアにある、自給自足とか助け合いなどの伝統をどう生かせるでしょうか。

アジアでは、老いた両親の面倒を見るなど「無私(セルフレスネス)」の伝統が欧米より残っている。家族は社会の最小の単位で、そこから地域社会への貢献を感じ、人生を過ごしている。この伝統は、経済の世界では社会的企業の創設で実現できる。

――日本への期待は。

フランスの人々が社会的企業を始めたが、日本の人々も重要な役割を果たせる。利益の最大化を夢見る眼鏡を外し、社会的企業の眼鏡をかけてみてはどうか。世界が全く違って見えるだろう。日本企業には社会貢献の基金がある。それを慈善事業の代わりに使える。